

倫理哲学グランプリ 2022

課題文

- ① 悪徳はいくらでもたやすく手にはいる。そこに至る道はなだらかで、悪徳はすぐ近くにある。しかし、不死なる神々は（人間たちに対して）徳の前に汗を置いた。そこに至る道は長く険しい。はじめは起伏が多いが、しかし頂上に行き着けば、その後はどんなに困難でも行き着くことはたやすい。

ヘシオドス『仕事と日』

- ② 世界を合理的に見る者にとって、世界の側は合理的な側面を見せる。その関係は相互的である。

G・W・F・ヘーゲル『哲学史講義』

- ③ 生きていくうえで大切なもののなかには、商品になると腐敗したり墮落したりするものがあるということだ。したがって、市場がふさわしい場所はどこで、一定の距離を保つべき場所はどこかを定めるには、問題となる善—健康、教育、家庭生活、自然、芸術、市民の義務など—の価値をどう測るべきかを決めなければならない。これらは道徳的・政治的な問題であり、単なる経済問題ではない。

マイケル・サンデル『それをお金で買いますか』

- ④ 下手な真実なら知らない方がいいのに。

三浦大知『仮面ライダーエグゼイド』EXCITE

哲学エッセイを書くにあたって

哲学エッセイは、学校でよく課題に出るいわゆる「生活作文」（生活の中で体験したことについて自分が感じたこと、考えたことを書くもの）ではありません。そうではなく、ある問題やテーマに関して、自分なりに問いを立て、様々な角度から考察し、筋道立てて書くものです。評価のさいには以下のような点が重視されます。

- ・ 選んだ課題文に含まれるテーマや問題とどれくらい向き合っているか。
- ・ そのテーマや問題についてどれくらい深く考え、理解しているか。
- ・ 自ら問いを設定し、それに答えるべく論じ、結論を出しているか。
- ・ 主張や意見を述べるさい、なぜそう言えるのか、明確な理由を挙げているか。
- ・ 具体的で分かりやすく、説得力のある首尾一貫した論述になっているか。
- ・ 反対の立場も検討しつつ、自分の立場をはっきりさせて論じているか。
- ・ 自分なりの論点や考えを含んだ個性的なエッセイになっているか。

こんなことを言われても、実際にはどうすればいいのか分からないかもしれませんし、これらのポイントをすべて満たすなんて無理でしょう。でも、書きながら迷い、悩んでください。それでもチャレンジするのが大事です。